

N-177

集客都市のエアロビクインフラについて

大成建設 正会員 藤田 俊英
ランニング学会員 清水 泰生

1. はじめに

96年版建設白書の「建設技術に関する総合的な取り組み」を見ると、21世紀の建設技術の視点としてつくる側の技術からつかう側の技術へと認識を転換することが求められている。一人一人が真に豊かさと幸せを実感できる生活を第一に考える時代には、技術の視点を実際に使う人々の側に置き、施設そのもののみでなく、施設周辺地域の環境や生活、歴史、文化などへの影響を含めた総合的な視点が重要になるからである。

また、「環境施策の展開」では（ゆとりとうるおいのある美しい環境の創造と継承）と題し、人と人とが交流し、緑とオープンスペース、清らかで豊かな水による「ゆとりとうるおい」に恵まれた、文化の香り豊かな美しい環境を形成するため、地域の特色や個性を活かした住宅・社会資本の整備を推進するとある。

一方、先進国では今までの定住人口の増加を競う都市政策は破綻し、ビジターシティ（集客都市）を目指した都市づくりを競い出した。日本でも、関西新空港が開港し、京阪神の国際集客都市宣言が相次いでいる。これから新空港を整備する東海地方でも、工場や産業遺産に光を当てる技術産業観光が叫ばれ出した。

つかう側の技術、ゆとりとうるおい、集客都市の考えを足し合わせて、新しいインフラ施設の事例が河川敷の有効利用を図る形態で登場している。整備中の大井川河口の左岸の幅7m、延長約21kmのマラソンコースと計画中の庄内川流域の総延長50km、幅6m以上の周回型自転車道は、共に専用で世界トップレベルの競技の開催が可能となる。本報文は、このような国際競技の開催も可能で、普段は一般市民に開放して肉体と精神の健康づくりに役立つ（仮称）エアロビクインフラの将来性を、エアロビクスの代表として大衆ランナーが楽しむシティ・マラソンを取り上げ、その日米の現況を調査、取材した比較検討から推測する。

2. 大衆ランナーとシティ・マラソンについて

ランニング学会では、大衆ランナーとは年齢は思春期以上で、実業団等に所属して国際的な大会の上位入賞を目指す目的の人でなく、国内で開催される5kmからマラソンまでの大会に出場することを目標にトレーニングを楽しむ人々であり、シティ・マラソンとは彼らが参加できる都市域の大会で必ずしも、フル・マラソンに限定していない。彼らは、1回に10km、1時間以内、1kmを6分以上のペースで走るジョギングを楽しんでいる。と言っても、現在の日本の都市域では、ジョギングを安全に楽しめる都市空間は少ない。

大衆ランナーの現況について、「全国フル・マラソンランキング・ランニング文化研究所編・95年度」の全国80のフル・マラソン大会の完走者の記録から、分析した結果を箇条書きで記述する。

- ①参加者No.1大会は、沖縄県那覇市で12月開催されたN A H Aマラソンで、約2万の男女参加である。
- ②のべ15万人の男女が参加、11.2万人が完走した。平均完走率=75%、平均参加者=3,400人である。
- ③完走した個人数は、男が75,529名、女が9,804名、合計で85,333名である。女：男=1：8となる。
- ④年代別完走個人数は、40代=25,100名、30代=24,800名、20代=21,500名、50代=9,800名である。
- ⑤県別完走個人数は、沖縄=15,300名、東京=6,500名、神奈川=5,400名、大阪=5,200名である。
- ⑥年齢別トップリストで最高齢者記録は、男が横浜84才で4,01.48、女が栃木75才で9,08.22である。

のべ15万人の男女がフル・マラソン参加していることから、大会に参加するしない合わせると、少なくとも十数倍の二百万人程度が、普段からジョギング程度のエアロビクスを楽しんでいると思われる。

キーワード 集客都市、つかう側の技術、大衆ランナー、シティ・マラソン、エアロビクインフラ

〒163-06 新宿区西新宿1-25-1 新宿センタービル TEL 03-5381-5117 FAX 03-3348-8471

〒641 和歌山市東子二里4の11

TEL 0734-44-3441

3. 代表事例について

日米のシティ・マラソンの代表事例を東京シティとニューヨークシティに選び、比較表を作成する。

1. 大会名	第6回 東京シティ（ハーフ）マラソン	第27回 NYシティ（フル）マラソン
2. 趣旨	都民健康保持・増進とスポーツ意識高揚 国際社会に開かれた東京をアピールする	故フレッド・リボー氏がビジネスに埋没したNYに人々の温もりを通わせるため
3. 主催等	主催：東京都、(財)東京都体育協会他 企画・運営：東京シティハーフマラソン実行委員会	主催：New York Road Runners Club
4. コース	都庁⇒水道橋⇒日比谷通り⇒大井競馬場	スタッテン島⇒ベラザノ大橋⇒中央公園
5. 参加競技者数 と 一般参加資格	(1)招待競技者 100名 (2)一般参加競技者 5,800名 (3)車いす競技者 100名 (4)都内在住18才以上、ハーフロード 2時間内 } 6,000名	(2)一般参加競技者 2万7千名 (世界百数ヵ国から約1万名参加) (3)車いす競技者 70名 (4)沿道観客者 2～300万人
6. 開催日 スタート時刻 打ち切り時刻	平成9年1月19日（日） 快晴微風 9時35分 総合ランの部スタート 11時39分 レース最終打ち切り	平成8年11月2日（日） 快晴微風 10時50分 総合ランの部スタート 16時20分 交通規制解除、競技続く

4. ビジネスランナーを中心にしたモデルコース選定基準について

大衆ランナーの現況分析から、20代から50代の男女が、沖縄、京浜、阪神とビジターズ・インダストリーに熱心な都市で、ビジネスランナーとして多忙極める中で、活躍している姿が浮かぶ。彼らの待望する都市エアロビクインフラとして、モデルコースを調査した結果を一覧表に示す。国内ではかなり少ない。

- | | |
|--------------------------------------|-----------|
| ①ビジネス街からアクセスが容易で、娯楽飲食街へのアクセスも容易である。⇒ | まず、行きやすい。 |
| ②更衣室、ロッカールーム、シャワールーム等が完備した施設・設備がある。⇒ | 着替えが簡単です。 |
| ③宿泊、飲食、通信手段・パソコン・コピー等が完備した施設・設備がある。⇒ | ビジネスも出来る。 |
| ④走っている仲間が多い、自転車や車両の進入なく、野犬や不審者がいない。⇒ | 安全第一に走れる。 |
| ⑤明るい照明、正確な距離表示、景観が楽しめる、時計台と水飲み場がある。⇒ | ニコニコ、楽しい。 |
| ⑥凹凸や亀裂のない舗装、楽に擦れ違える幅員、芝生や土の感触も楽しめる。⇒ | 膝や踵にも優しい。 |
| ⑦400mのトラックコースがあり、有名な実業団や学生選手が走っている。⇒ | 上級練習も楽しい。 |

5. まとめ

日本人の見るスポーツの好きな順は野球、相撲、マラソンであり、4位以下を圧倒している。12月始めのホノルル・マラソンに約2万人の日本人が参加する事実は、マラソンが好きな「するスポーツ」になる途中であることを明示している。しかし、海外から日本のマラソンに参加する大衆ランナーは皆無に近い。

本報文を書くにあたり、群馬大学の沖田社会情報学部部長から集客都市の将来性の教えを受けた。また、ランニング学会では、会長の富山大学の山地教授、群馬大学の山西教授、東京学芸大学の有吉教授から土木と医学、体育学等が今後、エアロビクインフラ整備に関連して連携する必要性を伝える勇気を授かった。